

平成28年10月17日

平成29年度県政推進指針のポイント

1 基本的な方向性

<課題認識>

平成29年度は、まずは、震災からの復興と景気回復に努める。
さらに、国民文化祭及び全国障害者芸術・文化祭、ラグビーワールドカップの開催準備も急ぐ必要がある。こうした取組と併せ、「安心・活力・発展プラン2015」を着実に推進していくことが重要である。

そして、国・地方をあげて取り組んでいる一億総活躍社会の実現に向けたメインエンジンとなる地方創生について、その取組をさらに加速していく必要がある。

<基本方針>

「県民中心の県政」の基本に立ち、震災復興・景気回復とともに、「安心・活力・発展」の大分県づくりを急ぐ。併せて、地方創生の取組を加速し、「人づくり」「仕事づくり」「地域づくり」「基盤整備」に重点を置いて取り組む。

2 新規又は拡充の取組等

【安心】

- 子育て満足度日本一の実現
 - ・待機児童解消に向けた保育士・保育教諭等の確保と保育の質の向上
 - ・病児保育の充実、子どもの貧困対策の推進、結婚や出産の希望の実現
- 健康寿命日本一の実現
 - ・ICTによる県内全域での健康ポイント制度の開発と普及促進
 - ・地域ごとの健康課題に即した健康寿命延伸の取組の展開
 - ・県立精神医療センターの整備推進、地域ケア会議の充実
- 障がい者が地域で暮らし働ける社会づくりの推進
 - ・差別解消に向けた相談体制の強化やコミュニケーション支援の充実
 - ・雇用事例を示した教材や懇談会等を通じた企業への障がい者雇用の働きかけ
- おおいとうつくし作戦の推進
 - ・祖母・傾・大崩ユネスコエコパークの登録と自然体験の機会の充実等
- 安全・安心な暮らしの確立
 - ・子ども・女性・高齢者を守る対策の推進
 - ・動物愛護拠点施設の整備
- 多様な県民活動の推進
 - ・NPOが企業や自治会等と協働して地域課題を解決するモデルづくりの推進
- 防災力・防災機能の強化
 - ・防災システムの整備・県災害対策本部の機能強化等
 - ・玉来ダムの早期完成に向けた事業推進と大分臨海部コンビナートの強靱化
- 移住・定住の促進
 - ・福岡県からのUターン対策の強化

【活力】

- 農林水産業による創出額2,250億円の早期達成に向けた構造改革の更なる加速
 - ・平成30年度の米政策見直しに対応したさらなる低コスト化や園芸戦略品目への転換
 - ・研修制度や給付金制度の充実等による新規就業者の確保・育成
 - ・豊後牛フラッグショップの展開や放牧牛の再肥育、豚肉のブランド統一、冠地どりの増羽作戦による新たな畜産マーケットの開拓
 - ・素材生産量140万㎡に向けた主伐への本格移行と再生林の徹底
 - ・「おおいた養殖魚」の関西や九州でのPR強化による販路の拡大
 - ・ICTを活用した匠の技術の見える化などスマート農林水産業の促進

- 多様な仕事を創出する産業の振興と人材の確保
 - ・大分県版第4次産業革命「OITA4.0」への挑戦
 - ・ドローン産業の創出に向けた技術開発や人材育成等の取組の推進
 - ・離島など条件不利地等へのサテライトオフィス等の誘致促進
 - ・中小企業へのきめ細かな支援、留学生と投資家とのマッチングや規制緩和の働きかけ等による九州一の起業・就業環境づくり
 - ・IT関連企業のニーズに応える人材育成の強化、クリエイティブ産業の育成
- 女性の活躍促進
 - ・就職や子育ての相談・支援にワンストップで応じる体制づくりの推進
 - ・無料託児サービスの拡充、在宅ワーク等新しい働き方に挑戦する女性の支援
 - ・女性起業家をサポートするネットワーク構築や女性のアイデアを生かした創業の促進
- ツーリズムの推進
 - ・六郷満山開山1300年プレ・本キャンペーンの実施、誘客、受入態勢整備
 - ・阿蘇くじゅう国立公園での体験型プログラムの開発、海外への情報発信強化
 - ・食やおもてなしなど、欧米向け受入態勢の整備
 - ・瀬戸内地域と連携した国内外発着のクルーズ船の誘致
- 海外戦略の推進
 - ・日本語パートナーズ事業に係る研修の円滑な実施支援
 - ・留学生等との協働や国際交流団体等との連携によるASEAN諸国との交流
- 活力みなぎる地域づくりの推進
 - ・自治会や商工団体、女性団体、NPOなど、新たな地域の担い手育成

【発展】

- 「教育県大分」の創造
 - ・学習指導要領改訂や高大接続改革を見据えた授業改善
 - ・学びのセーフティネットの充実やいじめ・不登校未然防止対策の強化
 - ・「芯の通った学校組織」を基盤とした教育水準の向上
- 芸術文化による創造県おおいの推進
 - ・専任組織立ち上げによる、国民文化祭及び全国障害者芸術・文化祭の本格的な開催準備、機運醸成
 - ・新たな埋蔵文化財センターを活用した本県の歴史・文化の魅力発信
- スポーツの振興
 - ・ラグビーワールドカップ2019の成功に向けた、専門委員会による開催準備の加速や好カードの誘致
 - ・大分スポーツ公園における屋内スポーツ施設の整備
- 交通ネットワークの充実等
 - ・中九州横断道路や中津日田道路など広域交通ネットワークのさらなる整備推進と九州の東の玄関口としての拠点化
 - ・東九州新幹線の整備計画路線格上げに向けた取組の強化

【地方創生】

「安心・活力・発展」の中から地方創生につながる内容を次の4つの視点でまとめ、「まち・ひと・しごと創生大分県総合戦略」に基づき取組を進める。

- 人を大事にし、人を育てる
- 仕事をつくり、仕事を呼ぶ
- 地域を守り、地域を活性化させる
- 基盤を整え、発展を支える

地方創生を推進するにあたっては、生活や仕事の基盤を整え、人や物の交流を活発にしていくことが重要であり、「地方創生回廊」の整備が急がれるため、広域交通ネットワーク等の整備を加速する。

3 予算特別枠「おおいた創生加速枠」

国民文化祭及び全国障害者芸術・文化祭、ラグビーワールドカップの準備を本格的に進めるとともに、「安心・活力・発展プラン2015」の取組を強化する。こうした取組を通じて、地方創生について、大分県の取組を加速する。

このため、ソフト事業を中心とした予算特別枠「おおいた創生加速枠」を設け、地方創生の4つのテーマに該当する新規事業を通常の予算枠とは別に要求できる。